

内閣総理大臣 小泉純一郎様
文部科学大臣 中山成彬様

歴史・公民教科書に関する要望書

日本キリスト教女子青年会（日本YWCA）は、世界120余カ国に広がる国際団体の一員です。2005年は日本のアジア太平洋戦争敗戦後、アジア諸国が日本から解放されて60年という節目にあたります。かつて日本が侵略したアジア諸国の人々への謝罪を深く心に刻み、平和を築くためにアジア諸国のYWCAとのネットワークを大切に考え活動を進めています。

2001年の教科書検定に際しては、韓国をはじめアジアのYWCAと対話し、「事実に基づいた歴史認識の共有」の大切さを確認しました。また同年開催された世界YWCA主催「アジア・太平洋地域会議」では21カ国のアジア・太平洋地域のYWCAが協議の上、世界YWCAが日本政府に対して、真の平和を模索することを要望しました。しかし、過去の過ちを認めず、歴史事実を認めようとしない日本政府の姿勢が今回の教科書検定結果に示され、アジア地域に不必要な緊張を生み、平和をゆるがしていることに強い危惧を覚えます。

文部科学省が2005年4月5日に発表した、2006年度から使用される中学校の教科書検定では、国内外で問題になっている「新しい歴史教科書をつくる会」主導の扶桑社版中学歴史および公民教科書が検定合格し、採択の対象となりました。

この教科書は、日本の植民地支配やアジア諸国への侵略などの歴史事実を認めず、また日本国憲法改悪を前提に国防・国家への奉仕をことさらに強調しています。これは、1982年の教科書検定基準に新設された近隣条項、1995年の村山首相談話、1998年の日韓共同宣言などの国際公約に違反するものです。日本国憲法を否定し、国際公約違反のこのような教科書を再び検定合格させたことは大変遺憾であり、強く抗議します。

今回、扶桑社が検定規則に違反して、歴史・公民教科書の白表紙本を扶桑社社員が漏出し、教育委員会関係者に渡していたことが新聞で報じられました。文部科学省は扶桑社に対して、昨年から今年にかけて「指導」を3回、嚴重注意を1回行い、「違反した場合には検定を停止することもある」としています。文部科学省はこうした違反行為を繰り返す扶桑社版教科書の検定合格を取り消すべきです。

よって以下のことを強く要望します。

要望事項

- 1 日本のアジアへの侵略戦争への深い反省に立って、日本国憲法と教育基本法を遵守し、加害・被害の歴史事実を教育を通して正確に次世代に伝えること。
- 2 1994年国連人権委員会は日本政府に対して、「慰安婦」問題を教科書に記述し「教育内容を改めることによって、これらの問題についての意識を高めること」を勧告しました。この勧告を真摯に受け止め、実行すること。
- 3 「新しい歴史教科書をつくる会」主導の扶桑社版中学歴史および公民教科書の検定合格を取り消すこと。

2005年4月22日

日本キリスト教女子青年会（日本YWCA）
会長 青木恵子
総幹事 松下起子